

宜野座村
学校施設長寿命化基本計画

令和 2 年 3 月

宜野座村教育委員会

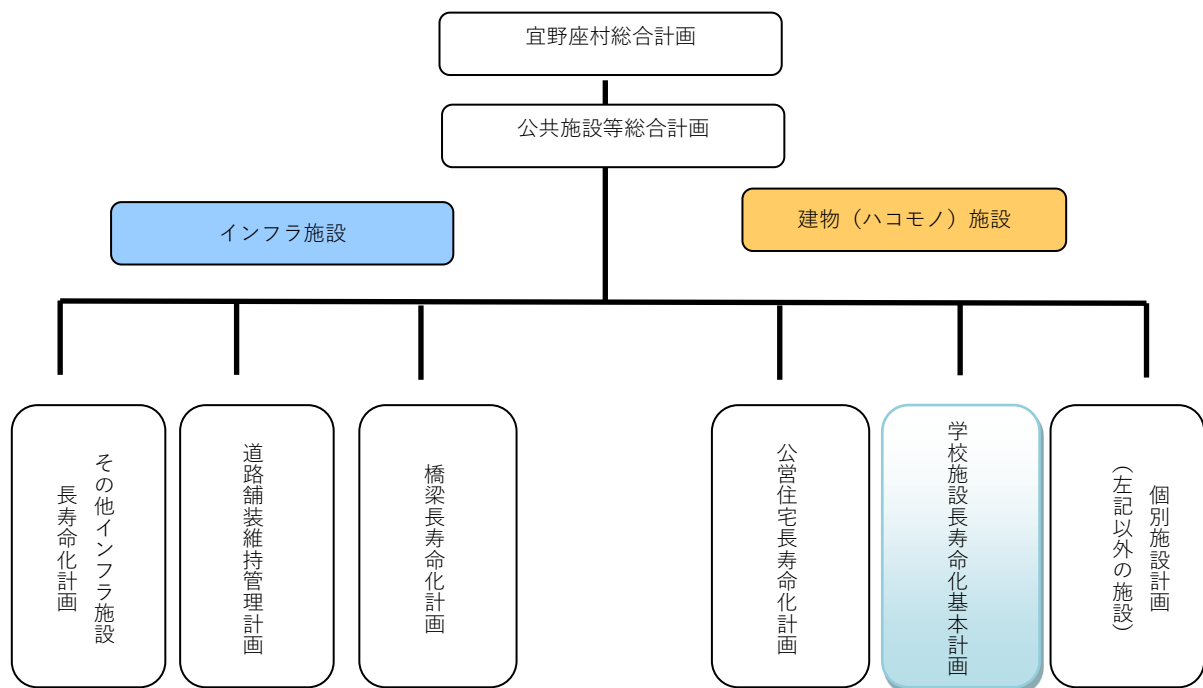
目次

(1) 長寿命化計画の背景・目的等	1
① 背景	1
② 目的	1
③ 計画期間	2
④ 対象施設	2
(2) 施設の目指すべき姿	3
(3) 施設の実態	4
① 施設の運営状況・活用状況等の実態	4
② 学校施設の老朽化状況の実態	11
(4) 学校施設整備の基本的な方針等	15
① 学校施設の規模・配置計画等の方針	15
② 改修等の基本的な方針	17
(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	18
① 改修等の整備水準	18
② 維持管理の項目・手法等	18
(6) 長寿命化の実施計画	19
① 改修等の優先順位付けと実施計画	19
② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～	21
(7) 長寿命化計画の継続的運用方針	22
① 情報基盤の整備と活用	22
② 推進体制等の整備	22
③ フォローアップ	22

(1) 長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

平成 25 年 11 月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、宜野座村では平成 28 年度に公共施設等総合管理計画を策定しました。「公共施設等総合管理計画」は宜野座村が所有する公共施設等の建替え・大規模改修の基本方針を取りまとめており、公共施設等の総量適正化、長寿命化を実施することで中長期的な維持管理費用の削減を目指しています。「学校施設長寿命化基本計画」は「公共施設等総合管理計画」の個別施設計画と位置付けられ、具体的な対応方針を定める必要があります。



② 目的

平成 28 年度に策定した「宜野座村公共施設等総合管理計画」に基づき、学校施設およびスポーツ施設の総量適正化や、維持管理費用や更新費用等を踏まえたライフサイクルコストの縮減、財政負担の軽減・平準化につなげることを目的としています。

③ 計画期間

令和 2 年度（2020 年度）～令和 11 年度（2029 年度） 令和 6 年度（2024 年度）に見直し

本計画は、策定後の令和 2 年度から令和 11 年度までの 10 年間を計画期間とし、中間年の令和 6 年度に見直しを行います。

④ 対象施設

本計画の対象施設は本村が所有する幼稚園、小学校、中学校、共同調理場となります。

表 1

区分	名称	住所
幼稚園	宜野座村立松田幼稚園	宜野座村字松田 602 番地
	宜野座村立宜野座幼稚園	宜野座村字宜野座 1190 番地
	宜野座村立漢那幼稚園	宜野座村字漢那 1987 番地の 5
小学校	宜野座村立松田小学校	宜野座村字松田 601 番地
	宜野座村立宜野座小学校	宜野座村字宜野座 1190 番地
	宜野座村立漢那小学校	宜野座村字漢那 1987 番地の 5
中学校	宜野座村立宜野座中学校	宜野座村字惣慶 1505 番地
共同調理場	宜野座村立共同調理場	宜野座村字惣慶 1505 番地の 7

(2) 施設の目指すべき姿

1.安全性

これまでに老朽化に伴う松田小学校の校舎改築や共同調理場の改築を実施し、より良い教育環境づくりを実施してきました。今後は、校舎や遊具の点検充実を図り、学校生活における事故防止を図ります。

2.快適性

冷房設備の整備、バリアフリーに配慮した環境など、学習能率向上に寄与する快適な学習環境を整えます。また、教職員などの事務負担を軽減するための ICT 環境の整備を行います。

3.学習活動への適応性

平成 25 年度より各小中学校に電子黒板・デジタル教科書、タブレット端末、無線 LAN などの ICT 機器を導入しています。ICT 機器の活用で児童生徒の意欲的な学習の姿が見られています。今後も児童生徒の学習意欲の向上に寄与する時代に合った学習環境の整備を実施します。

また、特別な支援を要する児童生徒の学習をサポートするために、特別支援教室の確保や特別支援サポーターによる特別支援教育の充実を図ります。

4.環境への適応性

省エネルギー化のため電気設備の LED 化など時代や風土に合う環境に配慮した学校施設を目指します。

5.地域への拠点化

災害時の拠点施設として機能する施設となる必要があります。また、住民サークル活動の場など地域の生涯学習拠点としての活用を目指しています。

(3) 施設の実態

①施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

平成 31 年度時点の児童生徒数および学級数は以下の通りです。幼稚園は宜野座幼稚園が 2 学級の構成であり、児童数は 37 人となっています。小学校の通常学級の場合、1 学級当たりの児童数は約 20 名です。松田小学校および漢那小学校は各学年 1 学級、宜野座小学校が主に各学年 2 学級の構成となっています。宜野座中学校は 1 学級 25 名から 30 名の生徒数で、1 学年で 75 名を超える学年は 2 学級の編成となっています。

表 2 対象施設一覧

区分	名称	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
		通常学級	特別支援	通常学級	特別支援
幼稚園	松田幼稚園	19	0	1	0
	宜野座幼稚園	37	0	2	0
	漢那幼稚園	13	0	1	0
小計		69	0	4	0
小学校	松田小学校	132	7	6	2
	宜野座小学校	227	11	11	3
	漢那小学校	127	5	6	2
小計		486	23	23	7
中学校	宜野座中学校	223	11	8	2
小計		223	11	8	2
幼・小・中合計		778	34	35	9

2) 児童生徒数及び学級数の変化

これまでの推移を見ると、各学校児童生徒数は緩やかに増加傾向であることが分かります。平成11年と平成31年を比較すると中学校生徒数は9.3%の減少となっていますが、幼稚園児数は16.9%、小学校児童数は33.2%の増加となっており、幼・少・中の合計で児童生徒数は9.3%増加しています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（平成30年推計）では、本村の0～4歳、5～14歳の人口は増加の見込みとなっています。児童生徒数の増加に伴い、学級数の増加が求められていますが、各学校の教室数に限りがあるため、教室の確保が課題となっています。

表3 児童生徒数（人）の推移

区分	名称	平成11年			平成16年			平成21年			平成26年			平成31年			平均		
		1999年			2004年			2009年			2014年			2019年					
		通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計
幼稚園	松田幼稚園	19	-	19	18	-	18	15	-	15	20	-	20	19	-	19	18	-	18
	宜野座幼稚園	32	-	32	30	-	30	28	-	28	37	-	37	37	-	37	33	-	33
	漢那幼稚園	8	-	8	18	-	18	12	-	12	17	-	17	13	-	13	14	-	14
	小計	59	-	59	66	-	66	55	-	55	74	-	74	69	-	69	65	-	65
小学校	松田小学校	124	0	124	108	2	110	87	0	87	105	0	105	132	7	139	111	2	113
	宜野座小学校	178	1	179	169	1	170	196	2	198	226	3	229	227	11	238	199	4	203
	漢那小学校	123	0	123	105	1	106	112	0	112	112	0	112	127	5	132	116	1	117
	小計	425	1	426	382	4	386	395	2	397	443	3	446	486	23	509	426	7	433
中学校	宜野座中学校	257	1	258	219	0	219	194	3	197	193	4	197	223	11	234	217	4	221
	小計	257	1	258	219	0	219	194	3	197	193	4	197	223	11	234	217	4	221
幼・小・中合計		741	2	743	667	4	671	644	5	649	710	7	717	778	34	812	708	10	718

表4 学級数の推移

区分	名称	平成11年			平成16年			平成21年			平成26年			平成31年			平均		
		1999年			2004年			2009年			2014年			2019年					
		通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計	通常学級	特別支援	合計
幼稚園	松田幼稚園	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1
	宜野座幼稚園	1	-	1	1	-	1	1	-	1	2	-	2	1	-	1	1	-	1
	漢那幼稚園	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	1
	小計	3	-	3	3	-	3	3	-	3	4	-	4	3	-	3	3	-	3
小学校	松田小学校	6	0	6	6	1	7	6	6	12	6	0	6	6	2	8	6	2	8
	宜野座小学校	7	1	8	6	1	7	8	1	9	9	1	10	11	3	14	8	1	10
	漢那小学校	6	0	6	6	1	7	6	0	6	6	0	6	6	2	8	6	1	7
	小計	19	1	20	18	3	21	20	7	27	21	1	22	23	7	30	20	4	24
中学校	宜野座中学校	9	1	10	7	0	7	6	1	7	6	1	7	8	2	10	7	1	8
	小計	9	1	10	7	0	7	6	1	7	6	1	7	8	2	10	7	1	8
幼・小・中合計		31	2	33	28	3	31	29	8	37	31	2	33	34	9	43	31	5	35

表5 将来の人口推計（人）

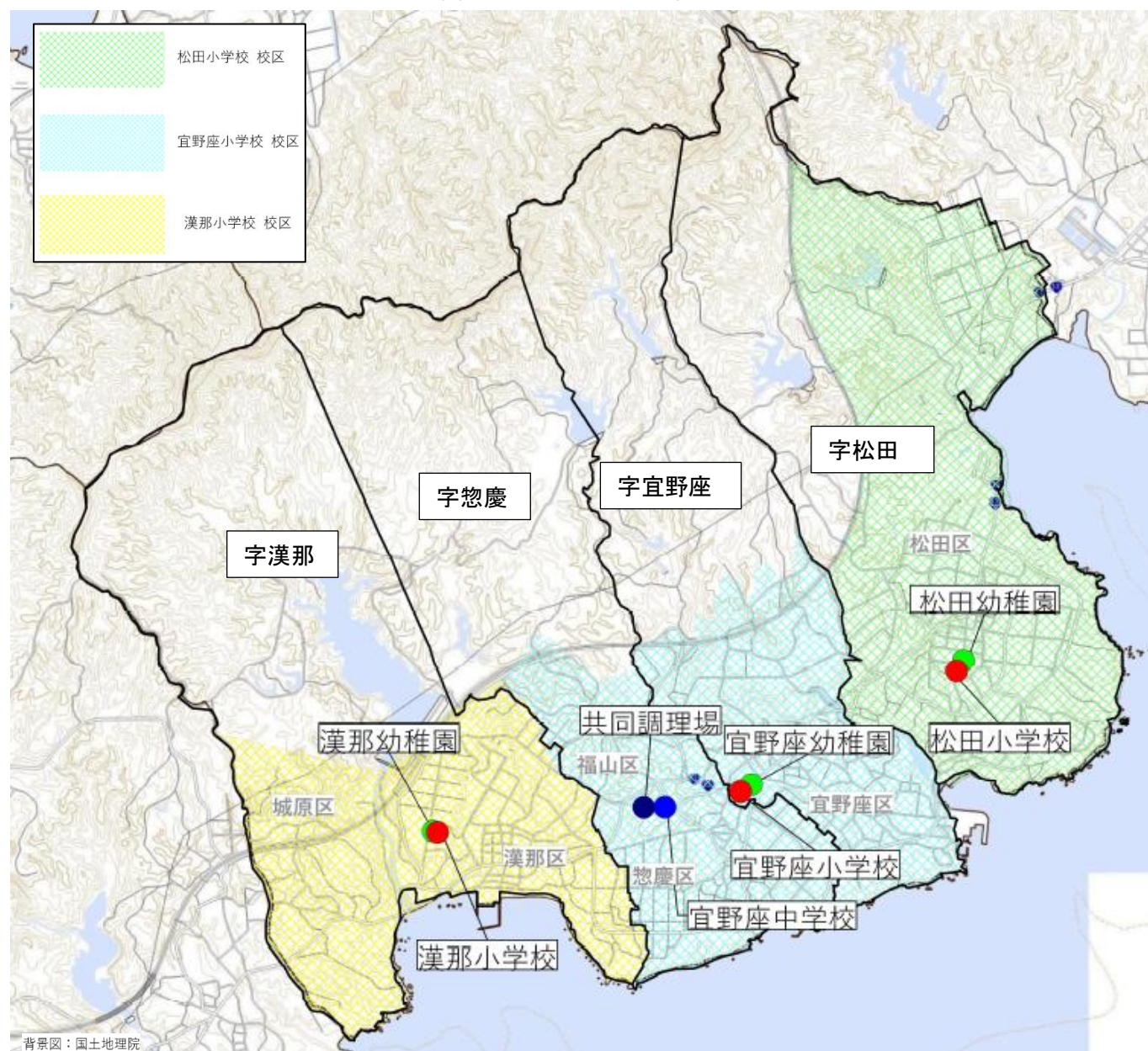
年齢区分	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～4歳	373	392	382	392	398	398	398
5～14歳	767	839	869	871	868	882	885
15～64歳	3,160	3,100	3,138	3,232	3,314	3,207	3,159
65歳以上	1,297	1,522	1,660	1,715	1,775	1,966	2,053
合計	5,597	5,853	6,049	6,210	6,355	6,453	6,495

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より

3) 学校施設の配置状況

本村は城原区、福山区、惣慶区、宜野座区、松田区の6つの行政区から構成されています。小
学校の校区は下図の通り、大字ごとになります。幼稚園は各小学校に併設されており、村全体を
1校区とした宜野座中学校は惣慶区に位置しています。

図1 学校施設の配置状況



※小学校校区が無いエリアは米軍基地となります。

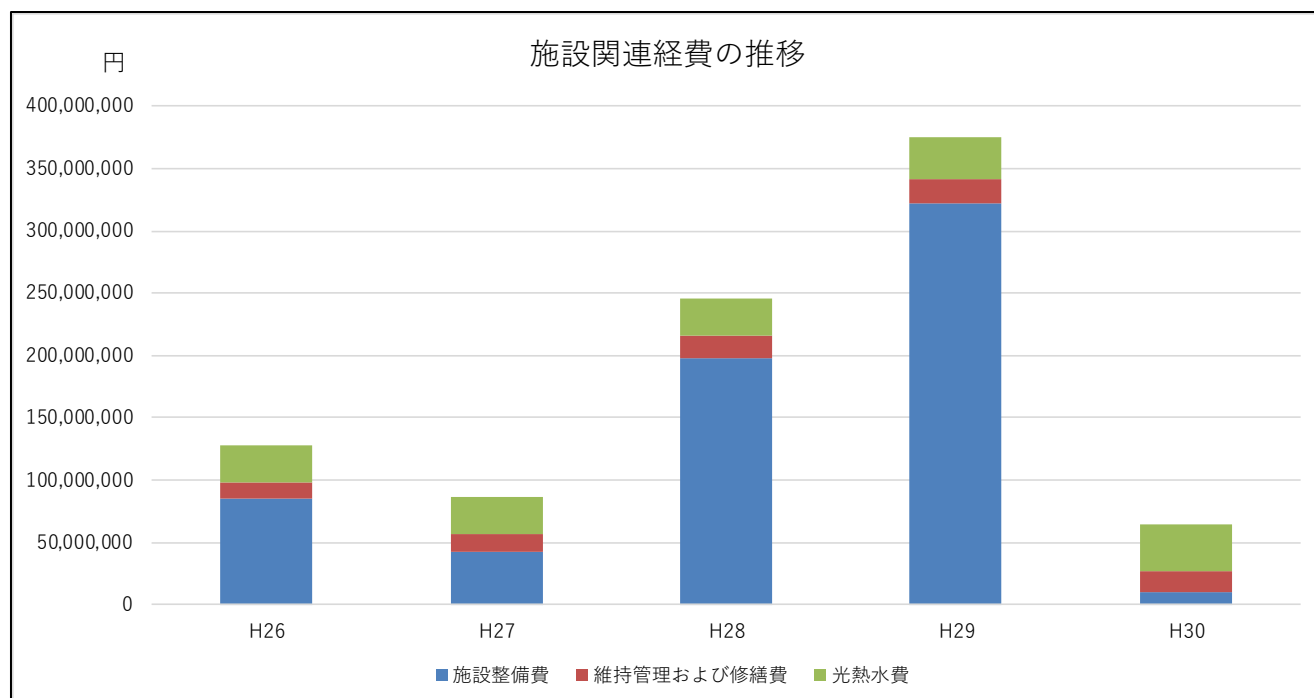
4) 施設関連経費の推移

過去 5 年の学校施設関連経費の推移をまとめました。施設整備費は主に建物の改築に係る費用となります。平成 29 年度は共同調理場の改築を実施したため 3.2 億円となっています。維持管理および修繕費は建物の修繕費や設備の保守点検費用等が含まれますが、過去 5 年の平均は 1.7 億円となっています。光熱水費は毎年増加傾向となっており、平成 30 年度は平成 26 年度と比べて 26% の増加となりました。

表 6 施設管理経費の推移 (円)

	H26	H27	H28	H29	H30	平均
施設整備費	84,579,551	41,847,716	197,359,881	322,243,992	10,446,364	131,295,501
維持管理および修繕費	13,661,543	14,838,582	18,832,459	19,649,677	16,961,384	16,788,729
光熱水費	29,063,969	29,819,331	29,327,541	32,843,243	36,803,300	31,571,477
合計	127,305,063	86,505,629	245,519,881	374,736,912	64,211,048	179,655,707

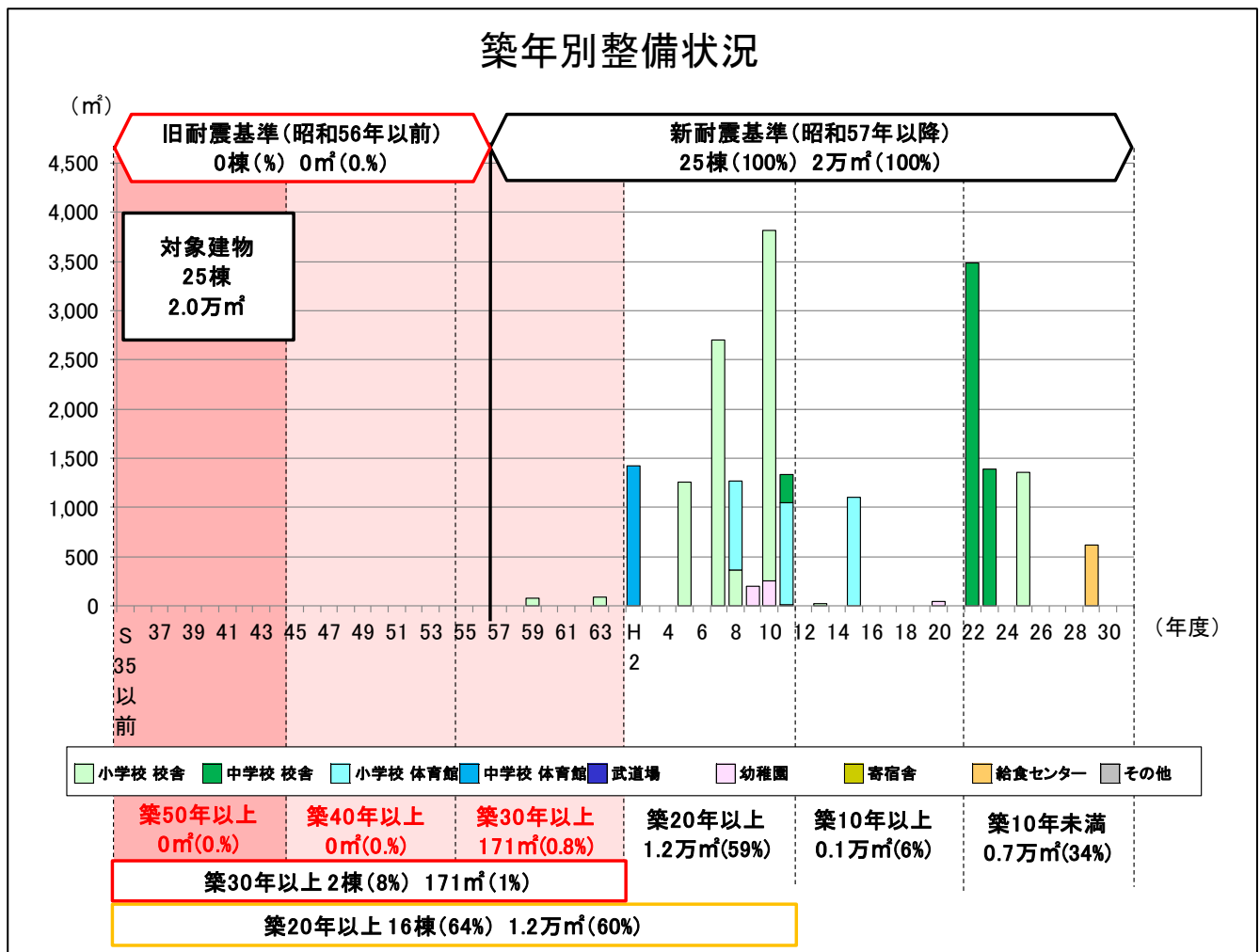
図 2 施設管理経費の推計



5) 学校施設の保有量

対象施設の建物棟数は全 25 棟、総延床面積は 2.0 万㎡となっています。昭和 57 年以前の旧耐震基準で整備された建物はありません。延床面積別で見ると築 20 年以上 30 年未満の建物が全体の 65%を占めています。平成 22 年以降は宜野座中学校や松田小学校の校舎、共同調理場を整備しました。

図 3 築年別整備状況



各建物の基本情報は下記の通りです。

表 7 建物基本情報

 : 築30年以上

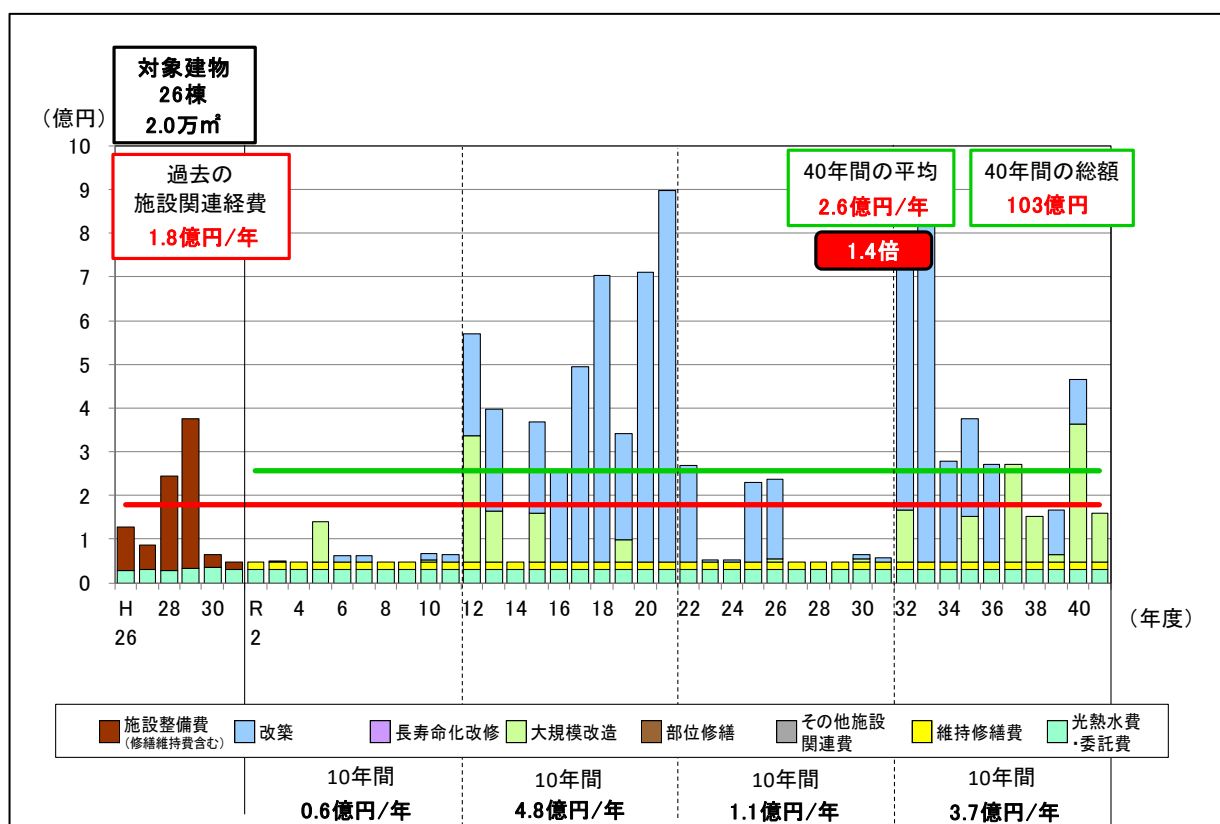
建物基本情報												構造躯体の健全性			備考
通し 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			
				学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	
1	松田幼稚園	校舎	3	幼稚園	園舎	RC	1	203	1997	H9	22	新			
2	松田小学校	プール専用付属室	11	小学校	校舎	RC	1	79	1984	S59	35	新			
3	松田小学校	校舎	12	小学校	校舎	RC	2	1,259	1993	H5	26	新			
4	松田小学校	倉庫	15	小学校	その他	RC	1	27	2001	H13	18	新			
5	松田小学校	屋内運動場	16-1	小学校	体育館	RC	2	1,102	2003	H15	16	新			地域・学校連携施設を含む
6	松田小学校	校舎	17-1	小学校	校舎	RC	2	435	2013	H25	6	新			
7	松田小学校	校舎	18-1	小学校	校舎	RC	2	919	2013	H25	6	新			
8	宜野座幼稚園	校舎	2-1	幼稚園	園舎	RC	1	252	1998	H10	21	新			
9	宜野座幼稚園	校舎	2-2	幼稚園	園舎	RC	1	49	2008	H20	11	新			
10	宜野座小学校	プール専用付属室	10	小学校	校舎	RC	1	92	1988	S63	31	新			
11	宜野座小学校	校舎	12、13	小学校	校舎	RC	2	3,559	1998	H10	21	新			
12	宜野座小学校	屋内運動場	14	小学校	体育館	RC	2	1,037	1999	H11	20	新			
13	宜野座小学校	倉庫	15	小学校	その他	RC	1	14	1999	H11	20	新			
14	漢那幼稚園	校舎	1	幼稚園	園舎	RC	1	203	1996	H8	23	新			
15	漢那小学校	校舎	1	小学校	校舎	RC	2	2,020	1995	H7	24	新			
16	漢那小学校	校舎	2	小学校	校舎	RC	2	677	1995	H7	24	新			
17	漢那小学校	屋内運動場	3	小学校	体育館	RC	2	907	1996	H8	23	新			
18	漢那小学校	プール専用付属室	4	小学校	校舎	RC	1	124	1996	H8	23	新			
19	漢那小学校	倉庫トイレ	5	小学校	その他	RC	1	35	1996	H8	23	新			
20	宜野座中学校	屋内運動場	16-1	中学校	体育館	RC	2	1,422	1990	H2	29	新			地域・学校連携施設を含む
21	宜野座中学校	部室	17	中学校	その他	RC	2	288	1999	H11	20	新			
22	宜野座中学校	校舎	18	中学校	校舎	RC	2	1,375	2010	H22	9	新			
23	宜野座中学校	校舎	19	中学校	校舎	RC	2	2,108	2010	H22	9	新			
24	宜野座中学校	校舎	20	中学校	校舎	RC	2	1,392	2011	H23	8	新			
25	宜野座村立共同調理場	共同利用施設	3	給食センター	給食センター	RC	2	618	2017	H29	2	新			

6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

計画対象の全建物を現状規模のまま更新した場合の今後の維持・更新コストを推計しました。推計の結果、今後 40 年間で 103 億円、1 年当たり 2.6 億円要する見込みとなります。過去 5 年の施設関連経費の平均額が 1.8 億円でしたので、年間 1.4 倍の維持・更新コストを要します。

令和 12 年から令和 21 年にかけての 10 年間および令和 32 年から令和 41 年までの 10 年間は築 40 年を迎える建物の改築や築 20 年を迎える建物の大規模改造が集中します。

図 4 今後の維持・更新コスト（従来型）



【推計条件】

改築

周期 40年

期間 2年

現在積み残している建替えは今後10年間で実施する

大規模改造

周期 20年

期間 1年

現在積み残している大規模改修は今後10年間で実施する

②学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考に、長寿命化の判定、改修方針の検討、今後の実施計画策定および維持・更新コストの試算を行うため、目視による劣化調査を実施しました。

【一次調査】

長寿命化改修に適するかを判断するために、下記の判定を行いました。

- 建築後 30 年以上の建物は「要調査」、試算上は「改築」とする。
- 上記以外は、試算上の区分を「長寿命化」とする。

【二次評価】

対象建物ごとに劣化状況調査を実施し、屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の劣化状況の内容を 4 段階で評価しました。なお、調査対象建物は、延床面積が 200 m²以上の建物としました。評価方法は以下の通りです。

①構造躯体外の劣化状況評価項目

《屋根・屋上》	《外壁》
<ul style="list-style-type: none"> ● 雨漏りがないか。雨漏りが原因であるシミやカビがないか。 ● 防水面の膨れ・剥がれ・破れ・穴開きなどがないか。 ● 金属屋根では、錆・損傷・腐食などがないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● コンクリートが剥落し、鉄筋が露出している箇所はないか。 ● 室内側において、雨漏りと思われるシミ垂れや塗装の剥がれはないか。 ● 外壁塗装の亀裂・浮き・剥離・ひび割れ・破損がないか。 ● 建具枠、蝶番などの腐食・変形・ぐらつきなどはないか。 ● シーリング材の硬化、切れ、剥がれなどはないか。

②評価方法

屋根・屋上および外壁

A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し、施設運営に支障を与えている）等

内部仕上げ、電気設備、機械設備

A	20年未満
B	20年以上40年未満
C	40年以上
D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

③健全度

各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化しました。

部位の評価点

A	100
B	75
C	40
D	10

部位のコスト配分

1.屋根・屋上	5.1
2.外壁	17.2
3.内部仕上げ	22.4
4.電気設備	8.0
5.機械設備	7.3
計	60

健全度

（部位別の評価点 × 部位別のコスト配分） ÷ 60

評価結果は以下の通りです。

表 8 劣化状況評価結果

建物基本情報											構造躯体の健全性		劣化状況評価						備考
通し 番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震 安全性		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)		
							西暦	和暦		基準	試算上 の区分								
1	松田幼稚園	園舎	3	RC	1	203	1997	H9	22	新	長寿命	B	B	B	B	B	75	地域・学校連携施設を含む	
2	松田小学校	プール専用付属室	11	RC	1	79	1984	S59	35	新	要調査						0		
3	松田小学校	校舎	12	RC	2	1,259	1993	H5	26	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
4	松田小学校	倉庫	15	RC	1	27	2001	H13	18	新	長寿命						0		
5	松田小学校	屋内運動場	16	RC	2	1,102	2003	H15	16	新	長寿命	A	B	A	A	A	93		
6	松田小学校	校舎	17-1	RC	2	435	2013	H25	6	新	長寿命	A	A	A	A	A	100		
7	松田小学校	校舎	18-1	RC	2	919	2013	H25	6	新	長寿命	A	A	A	A	A	100		
8	宜野座幼稚園	園舎	2-1	RC	1	252	1998	H10	21	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
9	宜野座幼稚園	園舎	2-2	RC	1	49	2008	H20	11	新	長寿命	B	A	A	A	A	98		
10	宜野座小学校	プール専用付属室	10	RC	1	92	1988	S63	31	新	要調査						0		
11	宜野座小学校	校舎	12	RC	2	795	1998	H10	21	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
12	宜野座小学校	校舎	13	RC	2	2,764	1998	H10	21	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
13	宜野座小学校	屋内運動場	14	RC	2	1,037	1999	H11	20	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
14	宜野座小学校	倉庫	15	RC	1	14	1999	H11	20	新	長寿命						0		
15	漢那幼稚園	園舎	1	RC	1	203	1996	H8	23	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
16	漢那小学校	校舎	1	RC	2	2,020	1995	H7	24	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
17	漢那小学校	校舎	2	RC	2	677	1995	H7	24	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
18	漢那小学校	屋内運動場	3	RC	2	907	1996	H8	23	新	長寿命	B	B	B	B	B	75		
19	漢那小学校	プール専用付属室	4	RC	1	124	1996	H8	23	新	長寿命						0		
20	漢那小学校	倉庫トイレ	5	RC	1	35	1996	H8	23	新	長寿命						0		
21	宜野座中学校	屋内運動場	16	RC	2	1,422	1990	H2	29	新	長寿命	C	D	B	B	B	53	地域・学校連携施設を含む	
22	宜野座中学校	部室	17	RC	2	288	1999	H11	20	新	長寿命	A	B	B	B	B	77		
23	宜野座中学校	校舎	18	RC	2	1,375	2010	H22	9	新	長寿命	B	A	A	A	A	98		
24	宜野座中学校	校舎	19	RC	2	2,108	2010	H22	9	新	長寿命	B	B	A	A	A	91		
25	宜野座中学校	校舎	20	RC	2	1,392	2011	H23	8	新	長寿命	B	A	A	A	A	98		
26	宜野座村立共同調理場	共同利用施設	3	RC	2	618	2017	H29	2	新	長寿命	A	A	A	A	A	100		

■ : 築30年以上

A : 概ね良好

C : 広範囲に劣化

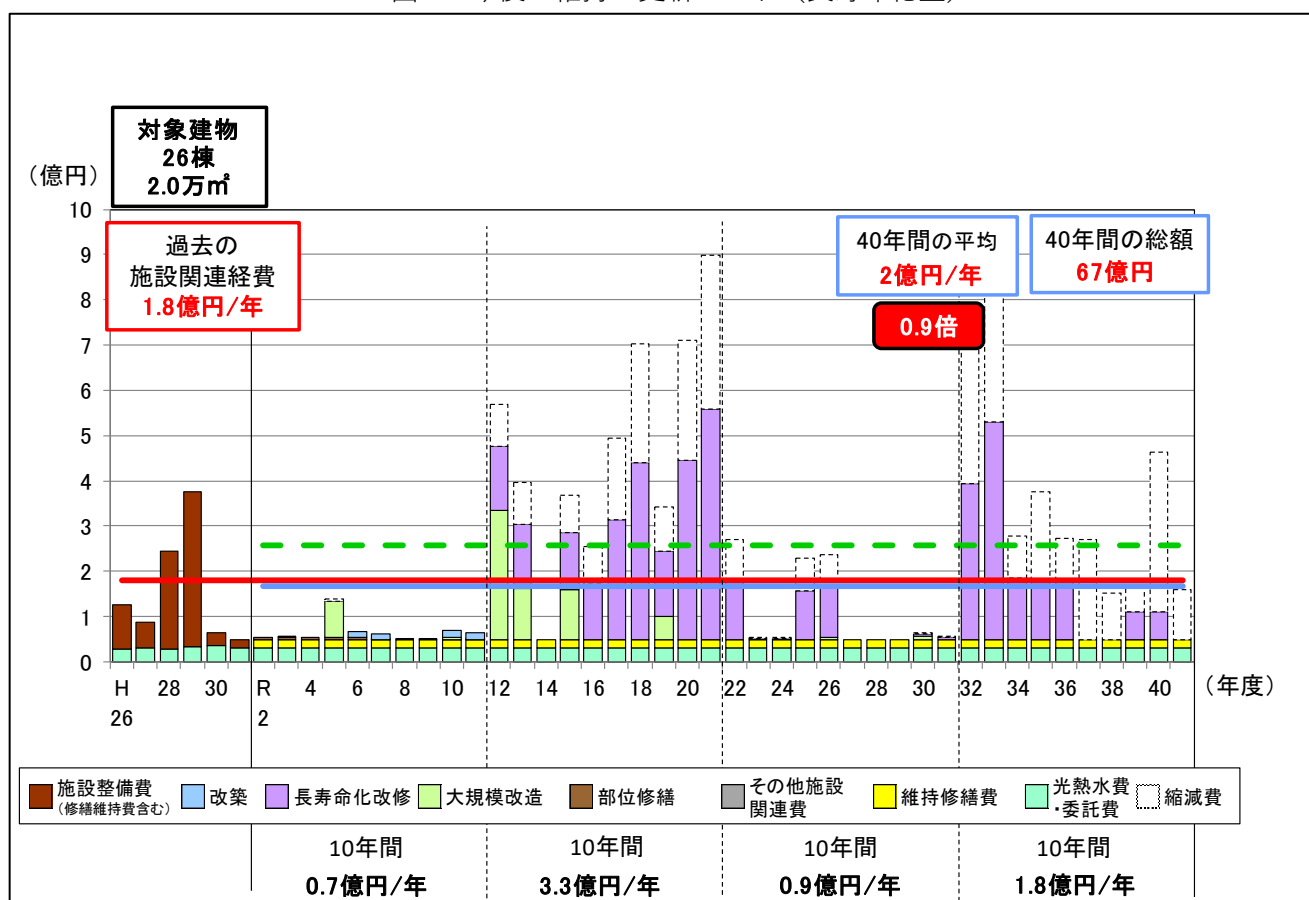
B : 部分的に劣化

D : 早急に対応する必要がある

2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

従来の改築中心ではなく、予防保全的に長寿命化対策を行い、建物を 70 年使用した場合の維持・更新コストを算出しています。その結果、40 年間の維持・更新コストは 67 億円となり、従来型の場合より 36 億円の削減が見込まれます。従来型では改築が集中していた令和 12 年から令和 21 年の 10 年間、令和 32 年から 41 年の 10 年間は長寿命化改修が主な更新となり費用の削減が可能となります。

図 5 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



【推計条件】

改築
周期（長寿命化した場合）70年
周期（要調査、長寿命化しない建物）40年
期間 2年
現在積み残している建替えは今後10年間で実施する

長寿命化改修
周期 40年
期間 2年
実施年度より古い建物の長寿命化改修を10年以内に実施

大規模改造
周期 20年
期間 1年
建替え、長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない

部位別修繕
D評価 今後5年以内に実施
C評価 今後10年以内に実施
建替え、大規模改修、長寿命化改修の実施期間内を除く

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

表 9 公共施設等総合計画の基本方針

全体	<ul style="list-style-type: none"> 数十年後の建物の更新費用を考慮し、原則として、施設を増やすのではなく、既存建物の長寿命化を図り、施設の維持・更新に係る費用を削減するとともに、既存建物の有効活用を行います。 診断と改善に重点を置いた総合的かつ計画的な管理に基づいた予防保全によって、公共施設等の長期使用を図ります。
施設類型別 【学校教育施設】	<ul style="list-style-type: none"> 今後の生徒数の把握を行い、増築や仮校舎の設置等の検討し、各学校の教室の確保に努めます。

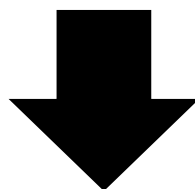


表 10 学校施設の長寿命化計画の基本方針

長寿命化計画 の基本方針	<p>【長寿命化の推進】</p> <p>改築を行う前に躯体の健全性調査を実施し、良好であれば長期に使用することとし、学校施設の長寿命化を目指します。</p>
-----------------	---------------------------------------------------------------------------------------

公共施設等総合計画の方針に沿って、学校施設についても上記の通り長寿命化の推進を行います。

2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

幼稚園については幼児教育の充実や共働き世帯の子育て支援を図るため、認定こども園整備の検討を行っており、幼稚園 3 園についても統合の検討を実施する予定となっています。今後は、子ども・子育て支援事業計画と連動しながら、認定こども園とともに幼稚園の規模や配置を検討します。

小中学校では児童生徒数が増加していることから、特別支援教育を充実させるために必要な教室の不足が課題となっています。児童生徒が満足できる教育が受けられるように教室の増築などを実施します。

② 改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

中長期的な維持管理にかかるトータルコストの削減、予算の平準化を実現するために以下に示すような建物を除き、長寿命化改修を実施します。

- ・鉄筋コンクリートの劣化が激しく、改築した方が安価となる建物
- ・コンクリート強度が著しく低い建物（13.5N/mm²）以下
- ・基礎の多くの部分で鉄筋が腐食している建物

2) 目標使用年数、改修周期の設定

表 11 目標使用年数、改修年の周期

目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
築 70 年	築 20 年	築 40 年

鉄筋コンクリートの建物は 80 年以上使用することも可能とされています。しかし、今後 40 年間の維持・更新コストをシミュレーションした結果、目標使用年数を 70 年とした方が費用の抑制が見込まれるため、目標使用年数を 70 年とします。大規模改造の周期を築 20 年、長寿命化改修の周期を築 40 年とします。

表 12 使用年数ごとの更新費用

使用年数	40 年の総額	40 年間の平均	備考
従来型 (使用年数 40 年)	103 億円	2.6 億円	大規模改造：築 20 年 改築：築 40 年
長寿命化型 (使用年数 70 年)	67 億円	2 億円	大規模改造：築 20 年 長寿命化改修：築 40 年 改築：築 70 年
長寿命化型 (使用年数 80 年)	76 億円	2 億円	大規模改造：築 20 年、築 60 年 長寿命化改修：築 40 年 改築：築 60 年

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

改修の実施に当たっては、建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など現代の社会的に要請に応じるための改修を行うものとします。また、学校間で改修等の差が無いように同じ水準に保ちます。

表 13 改修等の整備水準

安全・快適な施設環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯防災機能の強化 ・ ストレスのない環境整備 (空調設備の整備、防音対策、トイレの洋式化など) ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインの導入
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 環境の充実
地域への拠点化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災拠点施設 ・ 住民サークル活動の場の提供

② 維持管理の項目・手法等

下表の通り各種点検・調査を実施し、点検・調査結果は施設マネジメントシステムに登録し、蓄積・管理します。

表 14 維持管理の項目・手法等

担当	項目	実施時期	内容等
宜野座村 教育委員会	定期点検	年 1 回	専門業者に委託し実施。
	水道水質点検	年 1 回	専門業者に委託し実施。
	電気設備	月 1 回	専門業者に委託し実施。
	維持（修繕）	適時	予防保全の考えから劣化が進行する前に修繕を実施する。
	維持（清掃）	日常	快適な環境を維持するために実施。
	情報管理		点検、改修・修繕などの履歴を管理し、今後の改修・修繕時期や費用の把握を行う。
学校	定期点検	月 1 回	毎月 1 日を学校安全日として設定し、全職員で点検。 点検票にまとめ、校内および教育委員会へ共有。
	日常点検	日常	授業中などに発見した危険・修繕箇所を点検票にまとめ、校内および教育委員会へ共有。
	臨時点検	適時	学校行事、台風などの必要性がある場合。
	維持（清掃）	日常	快適な環境を維持するために実施。

(6) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画

長寿命化改修を実現するための実施計画の基本的な考え方は下記の通りとしますが、将来の児童・生徒数や財政・社会情勢の変化に合わせて、実施計画期間を5年ごとに区切り、見直しを行いながら改修等の対策を進めていくこととします。

表 15 改修等の優先順

項目	条件内容
○健全度	健全度の低い建物から改修（大規模改造、長寿命化改修）を実施。
○構造躯体	鉄筋コンクリート造は、基本的にすべて 築40年で長寿命化改修 を実施。 （ただし、事前の耐力度調査を実施し、躯体の安全性に問題のない建物に限る。）
○部位別修繕	D評価の部位を5年以内 に部位修繕を実施。 C評価の部位は、10年以内 に部位修繕を実施。 （ただし、改築、長寿命化改修、大規模改修を部位修繕期間内に実施する場合を除く）
○財政制約ライン	過去5年の施設関連経費より、1年間に実施可能な投資額を 1.8億円程度 とする。改修に当たっては、財政負担を考慮し、補助事業の活用を行う。
○効率性	一体的な工事の実施（プールとプール付属棟を同時に工事するなど）や、複数棟ある校舎などをまとめて実施するなど効率的な工事を実施する。

今後 5 年間の実施計画は下記の通りです。

表 16 直近 5 年の個別施設の整備計画

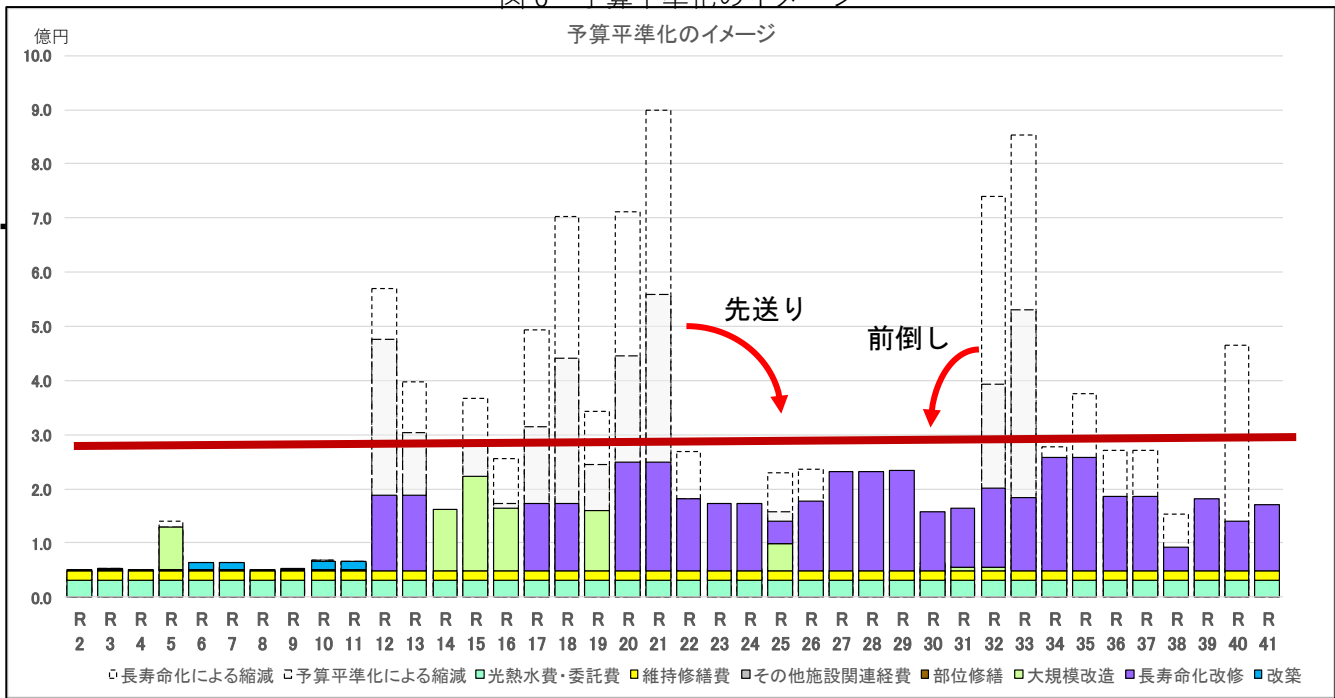
(百万円)

事業名称 年度	2020		2021		2022		2023		2024	
	R2		R3		R4		R5		R6	
	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
施設整備費	新增築事業	宜野座小学校 (校舎増築)	21							
	改築事業								松田小学校 (プール専用付属室)	26
	耐震化事業 (非構造部材の 対策含む)									
	長寿命化改修									
	大規模改造(老朽)						松田小学校 (屋内運動場)	80		
	防災関連事業									
	トイレ整備									
	空調整備									
	障害児等対策									
	部位修繕		宜野座中学校 (屋内運動場)	30						
	その他施設整備費								松田小学校 (プール改修)	15
	維持修繕費		17	17		17		17		17
	光熱水費・委託費		32	32		32		32		32
合 計		70	79	49	129	90				
財政制約		180	180	180	180	180	180	180	180	180
差額		110	101	131	51	90				

② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～

長寿命化を行うことで、今後 40 年間で 36 億円の削減が可能となります。今後の課題としては、令和 12 年から令和 21 年にかけて集中する更新費用となります。主に長寿命化改修の費用となりますが、財政制約ライン 1.8 億円に対して、毎年 3.3 億円の費用となります。耐力度調査を実施しながら、更新時期を調整し費用の平準化を行う必要があります。さらに実際に更新を行う際は積極的な補助事業を活用し、財政負担を軽減させる必要があります。

図6 予算平準化のイメージ



(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

これまでは法定点検の結果や光熱水費などの維持管理費、工事履歴を管理出来ていなかったため、今後は公共施設マネジメントシステムにて一元管理を行い、データを集積します。集積したデータは実績値として、今後の維持管理費用の財源確保に活用します。

② 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会の施設担当者を中心に本計画の実行に取り組みます。施設の長寿命化を実施するためには、学校施設の日常点検や定期点検を行い、老朽化箇所や危険箇所の早期発見が必要となります。そのためにも、職員の知識の向上や点検業務の外部委託等の検討を行います。さらに、財政係、子育て支援係などの関係部署との連携を図り、予算の調整や施設統廃合の調整を行います。

③ フォローアップ

本計画は宜野座村公共施設等総合管理計画の実行計画となり、学校施設の改修や優先順位を設定するものです。計画の推進にあたってはPDCA（Plan:計画の推進、Do:実行、Check：効果の評価・検証、Action：見直し）サイクルの考え方にに基づき、見直しを行います。